

日本史	1年・前期	1単位 15時間	教授 中村光一
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220131

1. 授業のねらい・概要

学生が、日本の医療・看護史に関する知識を社会的・文化的側面を中心に知り、理解できるようになることを目的とする。通史の形をとるが、もとより8回の講義の中で医療・看護史を網羅的に述べることは困難であることから、トピックを取り上げる形で講義を行うことになる。

2. 学修の到達目標

1. わが国の歩んできた歴史の概要が説明することができる。(D-1)
2. わが国における医療の歴史の概要を説明することができる。(D-2)
3. 歴史の流れを通じて、医療の上で看護師の果たす役割の大きさを説明することができる。(D-4)

3. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用する予定である。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングは実施しない。

【ICT活用の有無】

メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	導入—日本の人口動態	講義	予習：人口現象の自然的側面と社会的側面について概要を押さえておく 復習：今後考えられる日本の人口現象について考える	中村光一
2	律令制下の医療制度	講義	予習：「奈良時代」の法制度について概要を押さえておく 復習：古代の医療水準について確認する	中村
3	「天然痘」と奈良朝政治	講義	予習：「奈良時代」の政治史について概要を押さえておく 復習：世界史上での類例を考える	中村
4	怨霊と物の怪	講義	予習：「疑似科学」について概要を押さえておく 復習：平安時代以降の類例を確認する	中村
5	『病草紙』の世界	講義	予習：絵画が伝える「情報」について考える	中村

			復習：浄土信仰について確認する	
6	蘭学の発達	講義	予習：「江戸時代」の学芸について概要を押さえておく 復習：蘭学が英学に移っているその過程を考える	中村
7	華岡青洲と麻酔術	講義	予習：第6回の内容を敷衍し、江戸時代の医療について概要を確認しておく 復習：江戸時代の「私塾の文化」について確認する	中村
8	「脚気」のなぞを解く	講義・試験	予習：栄養不良が身体に与える影響について、概要を押さえておく 復習：試験でできたこと、できなかったことを確認する。	中村

5. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）で総合的に評価する。

試験分については、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況をルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。なお、ルーブリック評価表に関する詳細は第1回講義内で別途説明する。また、定期試験の出題範囲および出題方法等は事前に資料配付の形で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この予習・復習には、それぞれ90分程度が必要である。

8. 受講上の留意事項

本講義では、日本史上の人物、また地名など固有名詞がしばしば現れることになる。これらは高校程度の「地歴」分野の知識で十分対応できるものであるが、それらを十分咀嚼していない学生は、授業ごとに復習することで、知識を確かなものとしておいてほしい。なお、欠席については欠席届を必ず提出（病欠等の場合は事後も可）すること。また、遅刻、途中退室については事由が生じた際に理由を説明すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。